

資料紹介

梶川文書（二）

「役職覚書」と「御奥役心得」

並河正明

（会員 佐伯市常盤）

〔御書付〕※全て読み下し

覚え

梶川成人

その方儀、御預所代官役を申し付け候間、同役申談、諸事入念に相勤むべく候。祐筆見習の儀もこれまでの通り相心得るべく候。

己上

丑十月八日（嘉永六年）

覚え

梶川成人

その方儀、御預所掛役申し付け、扶持二人分を加え遣わし候間、同役申談、諸事入念に相勤むべく候。

己上

辰四月十二日（安政三年）

覚え

梶川成人

その方儀、祐筆役見習申し付け候間、同役申談、入念に相勤むべく候。御預所掛役の儀もこれまでの通り、相心得るべく候。

己上

巳四月十七日（安政四年）



数通の「覚え書き」

覚え

定附奥役にて 梶川成人

右の通り申し付け候間、同役申談 入念に相勤むべく候。これより御預所掛役は差し免じ候。祐筆見習の義は、これまでの通り申し付け候。勤役中は扶持二人分を加え、そのまま差し遣わし候間、その意を得るべく候。

己上

未十一月廿七日（安政六年）

心得之覚

一各儀 今度、御奥役を仰せ付けられ候に付いては、御用向き、昼夜入念に相勤めらるべく、何事も御用掛の差図を受け仕り申すべく候事。

一御奥御賄の儀、各へ仰せ付けられ候条、聊も御費これなき様、御儉約の筋、抜目なく吟味を遂げ、御不足相立たぬ様に計り申さるべく候事。

一御用これ有る節は、御茶之間まで罷り出で、御用掛に申さるべく候。御庭掃除等の節は其段、御用掛又は老女御中老の内へ相達し差図の上、相通り候。その節は小入ども不行義これ無き様、申し付けらるべく、御路次・御メリ等、その度々入念に申さるべく候。

心得之覚

一各儀今度御奥役

此御用掛申す御用

至勤入念に相勤

何事差図御賄

更に入念に申す

一御奥御賄の儀

此御用掛申す御用

至勤入念に相勤

御奥役「心得の覚」
文頭と文末

是後御用掛申す御用

至勤入念に相勤

何事差図御賄

更に入念に申す

一御奥御賄の儀

此御用掛申す御用

至勤入念に相勤

未 十一月廿七日 依圖儀

梶川成人

永野彦吉

御修覆所等これ有り、職人ども入り込み候節は別して入念に心を附け申さるべく候事。

一御女中高下の者に至るまで、平日猥しき不行儀これなき様、時々嚴重に申し付けられ候。御台所番の小人どもへも諸事手堅く申し付けらるべく候事。

一御女中ども高下に限らず、もし不快の節は昼夜共に早速、御用掛へ相達し、差図を受け御医師共へ見せ候様、計り申さるべく候。勿論その節、各のうち差し添え御奥へ罷り通らるべく候。

一御奥へ相通り候。面々、御定書を以つて仰せ出だされ候間、御家中は申すに及ばず、我方より御女中ども知音の者、罷り越し候儀、小児たりとも男子の儀は御錠口より内へ堅く差し通り申しまじく候。御錠口の外にて面会致し候節、猥しき儀これなき様、心を附け申さるべく候事。

一御門通路の義は六時限り御定法に付き、兼て御女中共へも右の趣き申し聞かせ置くべく、右刻限を過ぎ候ても御用これある時、使い等差し出さず候て相叶わざる儀は格別の事に候間、その節は御目見共へ相改め差し出し申さるべく、勿論、平日御門出入札相用い風呂敷包体の品

を差し出し候節は、送り札を御門へ差し置くを申さるべく候事。

一火の元、昼夜入念大切にいたし候様、申し付けらるべく候。風烈の節は尚更、昼夜共見回り心附け申さるべく候事。

一惣じて御奥向諸事入念、昼夜御メリ等心を配り、不埒の儀出来申さず候様、精々申し付けらるべく候事。

右の趣き申し渡し候様、仰せ出され候間、萬端手堅く相心得らるべく候。以上

未十二月六日 佐久間儀右衛門

梶川成人殿

永野五左衛門殿

覚え

梶川熊太郎

亡父市左衛門末期願いの趣、聞き届け、その方若年に付、七人扶持遣し候。年頭にも成り候わば、存じ寄りもこれ有り候間、その意を得、出精相勤むべく候。

己上

七月廿三日

【算術免状】

貴殿儀、当流の算術数年執行、且出精他を越え候の間、今度、目録并桐隨處の秘伝等、伝授せしむべく候は、いよいよ精進励みて極意の位、自得あるべくものなり。

嘉永六癸五年仲夏 西尾源左衛門 忠賢（花押）

梶川成人殿

〔起請文扣〕

今般小子等、算術執心による位附

開平・開立及天元術の各口伝、先師より伝来の旨、相伝せしむもの也。尚以つて、稽古懈怠なく心励・算勘・工夫の志を以つて、来る門人の内、深切稽古の輩これあらば言うに及ばず、親子たるといえども術意猥りに他言に及ぶべからず条、急度相守るべく、もし相背くにおいては、梵天・帝釋・四大天王・惣日本国六十余州の大小神祇、殊に伊豆箱根両所権現・三寫大明神・八幡大菩薩・天満大自在天神・部類眷属の神罰・冥罰を各罷り蒙るべし也。よつて起請文件の如し。

梶川成人 忠成（花押）

安政三丙辰年七月十九日

于後儀為流・素術
数年執行目録秘傳
此間今度目録秘傳
隨處秘傳亦令傳授
後者稱勵信以極意
位可自得者也
西尾源左
忠賢

嘉永六癸五年

仲夏吉日

忠賢

梶川成人殿